

Chuo Vision 2035

Chuo Vision 2025からChuo Vision 2035へ

2016年度から始まった中長期事業計画「Chuo Vision 2025」は、新学部の開設、多摩キャンパスと都心キャンパスの整備計画の進展等の大きな成果を上げ、2025年度をもって一つの終着点に到達しました。

そして、いよいよ本年度、本学は創立150周年にあたる2035年とその先の未来を見据えた新たな10年計画である中長期事業計画「Chuo Vision 2035」を本格的に始動させます。

Chuo Vision 2025の成果

本学は創立140周年を迎える2025年度に向けて、2015年度に本学として初の10年間にわたる中長期事業計画「Chuo Vision 2025」(2016～2025年度)を策定しました。本事業計画は、建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」に基づき、本学のさらなる飛躍のために使命(Mission)および将来構想(Vision)を明確にし、Visionを具体化するための諸計画を示したものです。この計画の遂行にご寄付やささまざまな形でご協力をいただいた皆様に、心からの謝意を表します。

中長期事業計画「Chuo Vision 2025」の方針に沿って、国際経営学部と国際情報学部を新設し、念願のオンキャンパス寮として、多摩キャンパスに国際教育寮を建設しました。また、茗荷谷キャンパスの新設と法学部の移転を実現し、駿河台記念館を建て替え、新駿河台キャンパスに2つの専門職大学院を集約し

ました。後樂園キャンパス1号館の建て替えなども実現しました。本学の海外オフィスも複数開設することができました。

さらに、AI・データサイエンスなどの新たな学問領域を取り込む教育研究組織をはじめ、ダイバーシティセンター、ELSIセンター、アカデミック・サポートセンター、教育力研究開発機構を開設しました。これにより、学際的・実践的な教育体系の確立と、社会的要請に応える人材育成体制の拡充の実現につながりました。また、学問の多様化と社会連携を同時に促し、本学の教育研究体制を質的・量的にも飛躍的に向上させています。

その他、「グローバル戦略」、「学際的研究拠点の形成」、「入試政策」、「スポーツ振興」、「総合学園」の各重点事業計画においても様々な取組みを推進しました。

Chuo Vision 2035

新たな伝統を紡ぐ そして次の150年へ

Toward the 150th, and Beyond

Chuo Vision 2035
詳細はこちらから

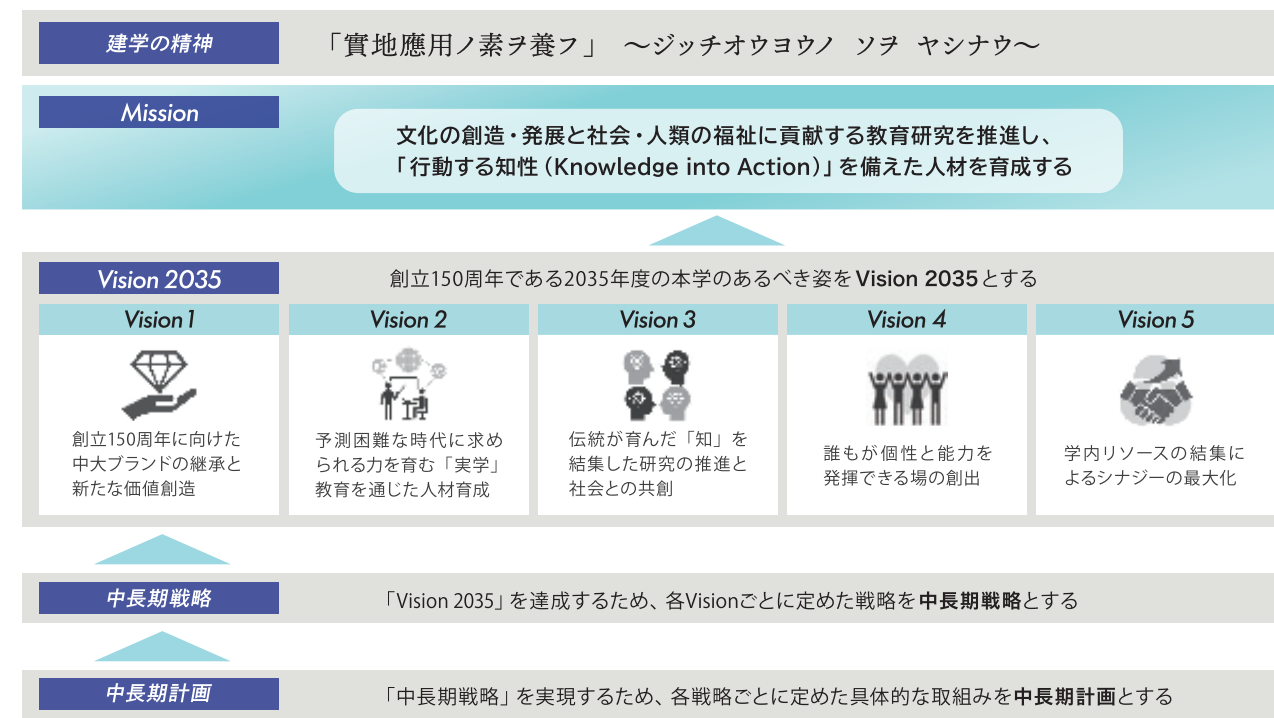


本学は、創立150周年を迎える2035年度に向け、中長期事業計画「Chuo Vision 2035」を策定しました。18歳人口の激減や世界情勢の混乱を念頭に置くと、創立150周年にあたる2035年までの10年間は、その後の本学のプレゼンスを左右する極めて重要な時期に相当すると認識しています。10年後の姿はどうあるべきか、学内組織・機関はその実現に向けて何をすべきか。中長期事業計画「Chuo Vision 2035」は、本学がさらなる発展を期すうえで、法人と設置学校(大学・附属学校)が拠って立つ行動指針にほかならず、達成が求められる大綱の計画を掲出しています。

本計画では、建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」に基づき、文化の創造・発展と社会・人類の福祉に貢献する教育研究を推

進し、「行動する知性(Knowledge into Action)」を備えた人材を育成することを使命(Mission)としています。また、創立150周年である2035年度の本学のあるべき姿をVision 2035とし、本学のブランド価値要素を踏まえ、2035年までに予想される社会状況や、高等教育を取り巻く外部環境の変化を見据えて5つのVisionを設定しています。さらに、Vision 2035を達成するためにVisionごとに複数の「中長期戦略」を示し、各戦略には具体的な取組みである「中長期計画」を定めています。

人材需要の変容や大学間競争の激化など、社会情勢が厳しさを増す中であっても、本学が50年後、100年後の日本および世界において確固たる存在感を示す大学となることを目指し、本学全構成員が一体となってさらなる成長と発展に取り組みます。



One Chuo

中央大学の近況を伝える大学広報誌 2026.7.27号

Contents

新理事会発足	01
Chuo Vision 2035	03
大学の様々な取り組み	07
学友会所属学生の活躍	08
ゼミ活動等学生の活躍	09
教員の研究成果	10
Chuo Stories 中央大学のエンブレムデザイン	11

海外向け広報用動画を公開

2026年5月1日現在、本学では38の国・地域から1,011名の外国人留学生が学んでいます。本学の新たな国際戦略「Chuo Global-X」では、外国人留学生数(2034年までに1,500名強)の達成、および高度外国人材としての優秀な外国人留学生の獲得と輩出を柱のひとつとして掲げております。世界に中央大学のプレゼンスを高めるべく、海外向けの広報用動画を作成しました。ご覧ください。

News pickup

海外広報用
ブランディング動画
「Knowledge into Action」



留学生生活紹介動画
Two Paths, One Campus
～一歩進んで広がった
新しい景色～



村佐達也さん(総2)が200㍍自由形で金、三連覇達成!! 第102回日本選手権水泳競技大会

2026年6月5日 第102回日本選手権水泳競技大会 東京アクアティクスセンター

第102回日本選手権水泳競技大会第2日には男子200㍍自由形で村佐達也さんが出場した。この種目で日本記録を持つ村佐さん、自身の持つ記録更新とはならなかったが、序盤から安定した泳ぎを見せ、1分45秒65という好タイムで優勝した。前々回、前回大会に続く優勝で三連覇を達成した村佐さんは、インタビューで「この種目じゃ負けられない」と話し、200㍍自由形にかけける強い思いをあらわにした。

「中大スポーツ」新聞部 Webサイト記事より転載

表紙: 男子200㍍自由形決勝のレースを終え、ガッツポーズする村佐達也さん
写真提供: 共同通信社

表紙の人 pickup

「中大スポーツ」
新聞部



▲金メダルを首に掛けほほ笑む村佐達也さん(写真中央)
写真提供: 「中大スポーツ」新聞部

未来を拓く学びの領域を拡大中 — 学部改革・拡大を加速

2026年度



2027年度



2028年度



理工学部改組・設置済



基幹理工学部

数学科/物理学科/応用化学科/生命科学科
入学定員 360人

社会理工学部

都市環境学科/ビジネスデータサイエンス学科/
人間総合理工学科
入学定員 280人

先進理工学部

精密機械工学科/
電気電子情報通信工学科/
情報工学科
入学定員 380人

基幹理工学部
社会理工学部
先進理工学部
公式サイト



認可申請中



スポーツ情報学部（仮称）

スポーツ情報学科（仮称）
学位分野：工学・経済学

特徴：文理横断・融合型カリキュラム

AI・データサイエンスとビジネスの文理横断・融合型の学びにより、社会における課題を分析・発見し、解決策を立案・実装することで新たな価値を創造できるデータ活用人材を養成します。

入学定員

295人

スポーツ情報
学部（仮称）
特設サイト



認可申請中



経済学部学科再編

経済学科 / 社会経済学科（いずれも仮称）

特徴：経済学科と社会経済学科の2学科4コース制へ再編

経済学および関連分野における体系的かつ重点的な学修機会を強化し、複雑化・多様化が進む現代社会の課題に対応する教育体制の「深化」と「進化」を図ります。

入学定員

1062人
（経済学科：542人、
社会経済学科：520人）

経済学部
学科再編
特設サイト



設置構想中



情報農学部（仮称）

情報農学科（仮称）
学位分野：農学・工学

特徴：農・食・環境分野の社会課題を解決に導く学び

日本の農業の課題を、ドローンやロボティクス、フードテック、AIなどの最先端テクノロジーを農業に活用する「AgriTech」で解決し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を養成します。

入学定員

297人

情報農学部
（仮称）
特設サイト



“One Chuo”

スポーツ応援イベントを開催



2026年5月5日～6日には、明治神宮野球場にて東都大学野球春季リーグ戦の応援イベントを実施し、両日ともに学生・生徒約130名、さらに、卒業生、ご父母、関係者の皆様にお集まりいただきました。神宮の青空の下、応援団のエールとともに熱い応援が選手たちを鼓舞しました。

本学の中長期事業計画「Chuo Vision 2035」が掲げる「応援文化の醸成」の一環として、スポーツ応援イベントを開催



2026年6月21日には、多摩校舎Cスクエア中ホールにて、FIFAワールドカップ2026パブリックビューイングを実施しました。卒業生の渡辺剛（わたなべ つよし）選手を応援するため、在学生、ご父母、卒業生、関係者合わせてのべ450名の方が来場し、満席のホールが大歓声に包まれました。

社会共創推進機構を創設

「知」の社会実装に取り組む新たな学際研究組織「研究イニシアティブ」を始動

2026年4月、研究成果の社会実装を加速させ、複雑化する現代社会の課題解決に寄与することを目的として「社会共創推進機構」を創設しました。本機構は、次世代人材の育成とともに大学に課せられた「知の社会還元」という重要な使命を果たすための全学的なプラットフォームです。

主な取り組みとして、実現を目指す社会像から逆算した学際研究組織「研究イニシアティブ」を始動。「都市における個とコミュニティのWell-Beingに資する分野融合による基盤技術の創出」を重点課題に掲げています。文理の枠を超えた学内の専門知を融合させる「分野融合型研究の推進」、企業や自治体とのネットワークを強固にする「産官学連携の深化」、そして実社会の課題解決を通じてイノベーションを牽引する「高度専門人材の育成」の3本柱を軸に活動を展開します。

本学の伝統である「実学」の精神に基づき、本機構を通じて研究成果を迅速に社会へ展開することで、我が国の持続的な発展とイノベーション創出に寄与することを目指します。

